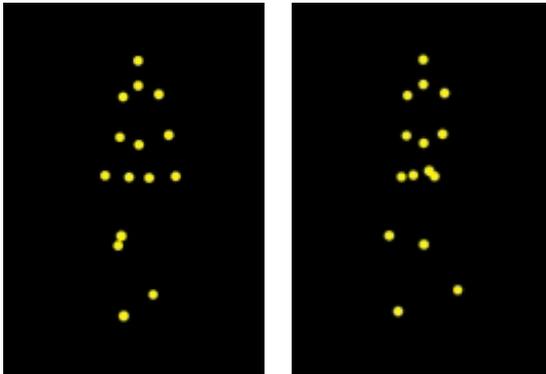


整理番号	HT25090	分野	人文	(キーワード)実験心理学・知覚心理学
------	---------	----	----	--------------------

立教大学

「動き」を感じるころの仕組み～脳が生み出す動きの知覚～

先生(代表者)	日高 聡太(ひだか そうた) 現代心理学部心理学科・准教授				
自己紹介	私は、人の心と脳の働きに興味を持ち、普段あまり接しないような現象(例えば、錯視)を通じて研究をしています。本プログラムでも、皆さんと一緒に錯視を体験し、そこからどのように心と脳の仕組みが明らかになるのかを考えてみたいと思います。 ホームページ: http://www.rikkyo.ne.jp/web/souta_hidaka/index.html				
開催日時・主な募集対象	平成 25 年 8 月 3 日(土)	(対象)	中学生	(人数)	30 名
集合場所・時間	立教大学新座キャンパス 6 号館 3 階 ロフト 2			(集合時間)	9:30
開催会場(集合場所)	立教大学 住所: 〒352-8558 埼玉県新座市北野 1-2-26 アクセスマップ: http://www.rikkyo.ac.jp/access/niiza/direction/				
内 容					
<p>我々は普段の生活の中で、当然のように外の世界の情報を受け取り、認識しています。しかし、脳の中では、気がつかないうちに膨大な処理がなされています。このプログラムでは、色々な錯覚現象を通じて、心と脳が様々な情報を手がかりに動きの知覚を「生み出す」ことを体験してもらいます。まず、講義「「動き」を感じる脳とところの仕組みとは」では、「運動残効」や「仮現運動」など、心理学で広く知られている動きの知覚に関する様々な錯覚を一緒に体験してもらいます。次に、実際の研究事例として、私自身が発見した錯視現象についても紹介します。それらを通じて、皆さんにも研究者になったつもりで、研究から明らかになった心と脳のメカニズムについて考えてもらいます。また、体験学習の時間もあります。そこでは、たった数個の光点の運動から生体の動きが知覚されるバイオロジカルモーション映像(図1)や、自分の手と目の前に置かれたゴムの手が同時に触れられることで、ゴムの手があたかも自分の手のように感じるラバーハンドイリュージョン(図2)といった、興味深い錯覚を実体験してもらいます。さらに、学内見学として、色々な錯覚装置や大学の施設も合わせて見学してもらいます。また、現役の大学生と交流する機会を通じて、実際の大学生生活などにも触れてもらう予定です。</p>					
					
図1:バイオロジカルモーション映像の例			図2:ラバーハンドイリュージョン装置		

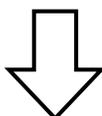
スケジュール		持ち物
9:30～10:00	受付(立教大学新座キャンパス 6号館 3階に集合)	筆記用具
10:00～10:30	開講式(あいさつ, 科研費の説明, プログラムの説明, 実施協力者の紹介)	
10:30～11:30	講義「「動き」を感じる脳とこころの仕組みとは」	特記事項
11:30～11:40	休憩・体験学習準備	
11:40～12:40	体験学習(「バイオリジカルモーション」・「ラバーハントイリュージョン」・学内見学)	
12:40～13:45	昼食(研究者・大学院生・大学生との交流会を兼ねる)	
13:45～14:00	全体討論・質疑応答	
14:00～14:30	修了式(アンケート記入, 未来博士号授与, 記念撮影)	
14:30	終了・解散	

《お問い合わせ・お申し込み先》

所属・氏名：	立教大学 リサーチ・イニシアティブセンター 担当:伊藤由巳
住所：	〒352-8558 埼玉県新座市北野 1-2-26 6号館 3階
TEL 番号：	048-471-6790
FAX 番号：	048-471-7394
E-mail：	cri-niiza@rikkyo.ac.jp
申込締切日：	平成 25 年 7 月 12 日(金)

《プログラムのテーマと関係する科研費》

研究代表者	研究期間	研究種目	課題番号	研究課題名
日高 聡太	H22-23	研究活動スタート支援	22830094	脳内に生成される物体知覚表象による視覚的意識の消失現象の解明



★この科研費について、さらに詳しく知りたい方は、下記をクリック！

<http://kaken.nii.ac.jp/d/p/22830094.ja.html>

※国立情報学研究所の科研費データベースへリンクします。